



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行しています。

外国語活動・外国語研修会

令和7年6月9日（月）実施

「言語活動を通して」指導することの具体

講師：関西外国語大学 直山 木綿子 教授

外国語活動・外国語科の目標

小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせ 、外国語による聞くこと、話すことの 言語活動を通して 、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせ 、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動を通して 、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせ 、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動を通して 、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせ 、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動 及びこれら結び付けた統合的な 言語活動を通して 、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



言語活動とは、
実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという活動を意味する。
『小学校 外国語活動・外国語 研修ガイドブック』文部科学省 2017年

外国語活動・外国語科は、全ての校種で、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

小6 Unit1 自己紹介

～言語活動を中心に据えた授業展開の例～

ポイント1

子どもに身に付けさせたい表現は、リピートさせるだけではなく、教員が繰り返し使いましょう。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに合わせたやり取りの中で何度も英語を話すことを通して表現習得につながります。

ポイント2

「What did I/he/she say?」の質問に繰り返し答えながら何度も口に出すことで、表現に慣れ、言い方を学びます。そして、「自分だったら」と自分事として考え、表現することができるようになっていきます。

ポイント3

単語ではなく、文で繰り返しやり取りすることで、文構造を意識でき、話したり書いたりする際に語と語の結び付きを考えて表現できるようになります。そして、これらが中学校での文法の学習につながっていきます。

ポイント4

ペア活動後は、どんな質問をしたかを全体で共有します。また、伝えたかったけれど「言い方が分らなかったこと」を既習語句や表現で言い表す体験を通して、表現を工夫する方法を学びます。

【ペア活動の前にやり取りの様子を見せる】

担任：What sport do you like?
児童A: I like badminton.
担任：You like badminton. Great!
What did he/she say?
児童B: I like badminton.
担任：What did he/she say? (全体に問いかける)
(みんなが発話できるように繰り返し問いかける)
全員：I like badminton.
(数回繰り返し、この表現を使えばよいことに気付けるようにする)
担任：What sport do you like?
児童C: I like baseball.
担任：Oh, you like baseball. Nice!
OK. Ask your friend.
(ペア活動へつないでいく)

【ペア活動のやり取りをクラスで共有する】

担任：どんなやり取りをしたの? やってみて?
児童D: What sport do you like?
児童C: I like baseball.
児童D: Can you play baseball well?
児童C: Yes, I can.
(既習事項を使ってやり取りできることを全体に広げる)
担任：Great! ちなみに困ったことはない?
児童D: 好きになったきっかけが聞きたいけど
「きっかけ」って何て言うのかな?
担任：他の言い方で表現できないかな?
児童D: 「好きになったのはなぜか聞きたいのか!」
「Why do you like baseball?」



言語活動を通して、子どもたちが既習事項を使ったり工夫して表現できたりしたことをクラスで共有しましょう。また、すぐにタブレットで調べるのではなく、子どもたちが分からなかったことや困ったことについて、みんなで表現を考え、教員が練習させたり、指導したりすることも大切です。



ペア活動は、隣・前後・斜めなど相手を替えて何度も對話しましょう。



【受講者の感想】

- ・ 授業の中でペアのやり取りを行う機会を増やし、その場で「困ったこと」や「できなかったこと」を共有し、指導していく形の授業展開にチャレンジしていこうと思った。
- ・ 経験を通して失敗しながら言葉を習得していく、言語獲得の本質を実感することができた。
- ・ 言語活動とは仲間の言葉を受けてどう返すか、何度も繰り返しながら言語を落とし込み、伝える力を身に付けることであると実践を通して学ぶことができた。

Ⅰ人Ⅰ台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現

講師：国立教育研究所 初等中等教育研究部 白水 始 部長



主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりが重要！

対話とは

問いのない連想による情報交換である「おしゃべり」ではなく、「問いを解くための話し合い」であり、前後でみんなの考えが変わってよい。

深い学びには対話が役立つ！

考えるということは、問題を把握し、自分なりに要素を処理して仮の答えを導き出す繰り返しである。しかし、一人ではすっきりした結論を得たいため、考えが深まらないこともある。そこで、「他者」と対話することで、違う視点を手に入れ、自分の考えを効率的・効果的に見直すことができる。（この作用を「建設的相互作用」という）

Ⅰ人Ⅰ台端末も効果的に活用しながら、建設的相互作用の働く、主体的・対話的で深い学びを実現していこう。



対話が起きるための条件とは？

- ① 一人では十分な答えが出ない課題をみんなで解こうとしている。
- ② 課題に対して一人一人が何か言いたいことをもっている。
- ③ 「私の考え」と「あなたの考え」には「違いがある」ということが明示されている。
- ④ 「違う考え」を組み合わせると、よりよい解に到達できるという期待がある。



対話を引き起こすための一つの例として型を使って協調学習を引き起こす「知識構成型ジグソー法」がある。



「知識構成型ジグソー法」について詳しく知りたい方は、白水先生の著書である「対話力」を参考にしてくださいね！



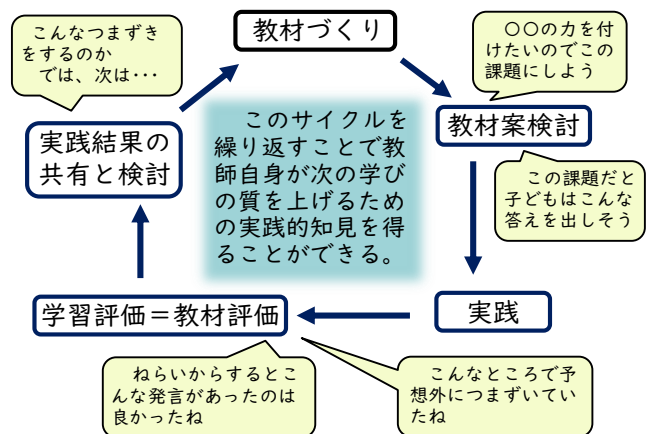
子どもたちと授業をする前の教師一人一人の授業づくりが大切！

大切にしたい授業づくりの視点

- ・ 授業前の子どもの頭の中を推測する。
- ・ 子どもたちにとって理解ができて、一人では十分な答えが出ない課題、つまり「深い学びにつながる対話」が引き起こせそうな課題になっているか考える。
- ・ 本時の前後の学習の流れなどから、子どもたちが使いそうな知識・技能を推測する。



学びの質を支える学校全体での授業研究が必要！



【授業研究の進め方のポイント】

授業者によるねらいや意図、具体的な学習の想定を事前に共有した上で、実際に子どもがどう学んでいるか、その対話や記述等を想定と見比べながら見取る。そして、見えてきたことを研究協議で共有し、授業デザインや見取りの観点を見直し、次の授業に生かせそうな仮説を得ることが大切になる。

このような授業研究の方法を「仮説検証型授業研究」というよ。



【受講者の感想】

- ・ 対話的で深い学びについて理解を深めることができた。形式的な対話ではなく、対話する意義や意味、必然性をもたせていくことが大切だと感じた。教員同士も対話をし、深い協議を進めていきたい。
- ・ 対話を引き起こすためには、付けたい力やねらいに即した対話を引き出す問いを設定することが大切だと感じた。日々の教材研究の中で、子どもの学びを具体的に想定しながら、対話から深い学びにつながる課題設定を意識していきたい。また、学びの質を向上させる授業研究を学校全体で目指したい。